

# 式 辞

秋も一段と深まり、木々の葉も見事に色づく季節となりました。

本日、篠崎第二小学校開校五十周年記念式典を開催しましたところ、区長代理教育委員古巻勲様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜りまして、高い席からで恐縮ですが、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、本校篠崎第二小学校は今から五十年前の昭和四十二年に開校しました。そして、前身である篠崎小学校第一分校は今から百十二年前、明治

三十八年に開校しました。その頃、辺りは田畑が多く、池もあつたそうです。そして畦道を歩いて現在ポニーランドの場所にあつた分校まで通つたそうです。通学する時は、校歌にある遙かな富士が、スカイツリーのように見えたそうです。

この分校が開校されるよりさらに二十五年前、江戸川区史を紐解くと、この地域には東京府認可の私立小学校があつたそうです。明治十三年に江戸川区域には二十四校しかあつたそうですが、そのうちの一枚が、この地域にありました。澤地学校です。地域の熱意から澤地周助氏が家塾を作り、それが私立小学校として認可されました。地域に教育を根ざした澤地先生。私たちは、開校五十周年を迎えるにあたり、この地域で教育を推進する教育者として、先人に敬意を称します。

そして、この地域に脈々と教育が継がれてきたのは、澤地先生のご努力と共に、教育に熱心であり、学校と共に協力と支えを惜しみなく注いでくださる地域力のおかげだと思えます。ここは伝統と誇りある浅間神社幟祭りや本郷獅子もみを復活

させた篠崎です。幟を復興させた幟会では、五つの地区の団結の願いを込めて法被の帯に五地区の名前が入っていると聞きました。獅子もみ会は二百人以上の地域の方々が力を合わせて古式そのままの方法を踏襲復活させたそうです。地域愛と協力・団結力がある篠崎だからこそ、この地域には教育が根を張ることができたのではないでしょう。

本校では、周年の際に、受け継ぐ伝統を体感させると共に、その地域愛と協力・団結力を育ててまいりました。今回も今朝の周年集会で行いました。子どもたちは、やがて地域を愛し、本校を愛する社会人となります。皆様のお仲間に入ります。どうか共に地域の、伝統の、篠崎第二小学校の未来を託せるよう、共にご指導いただければ幸いです。

また、五十周年という大きな節目を迎えるに際し、今回は五十年間の足跡を百周年へ託そうと試みました。具体的には十周年の篠二小太鼓をPTA やすくすくスクールと協力して復活させまし

た。今後とも子どもたちを育成していく予定です。また二十周年の篠二音頭はメロデーと振り付けを新たに作成し、運動会や周年集会で踊りました。作曲は当時小学生だった本校PTA副会長の金子誠一氏です。これからもこの曲を大切に継承してまいります。また四十周年に作成した第二校歌は校歌と共に組曲に編曲し、ブラスバンドで演奏します。組曲にすることで、校歌と共に歌い、演奏されることでしよう。また、分校時代から本校の子どもたちを見守っている大きな桜ですが、安全面に課題が生じるため、その苗木を現在育成し、来年二月に植樹する予定です。そして今後も百年、二百年とさくら門から子どもたちを見守ってまいります。

最後になりましたが、本校は昨年よりオリンピック・パラリンピック教育推進、世界ともだちプロジェクトの一環としてセルビア共和国大使館と国際交流を推進しております。この五十年、校歌三番にある「日本の明日を担うもの」は、日本の伝統と「おもてなし」の心が育てて参りました。

今後は、これを機会に、さらに国際感覚を身につけ、国際社会の明日を担うものを育て、世界に誇れる篠崎第二小学校を築いていきます。五十年目を迎えるにあたり、篠崎第二小学校は「故きを温ねて新しきを知る」スタートに立ちました。どうか、未来に邁進し、百周年に向かう篠崎第二小学校のために、より一層皆様方の、ご支援・ご指導・ご協力を賜りますよう、どうか、お願い申し上げます。式辞とさせていただきます。

平成二十九年十一月十七日

江戸川区立篠崎第二小学校長 篠原 一